

2018—2019 年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 8月

作成者：北 瑠依子

作成日：2018年9月4日

皆様、初めまして。2018 年度フィンドレー大学・福井県奨学生として、アメリカのオハイオ州にあるフィンドレー大学に留学させていただいております、北 瑠依子と申します。福井県奨学生として、このような貴重な機会を頂けたこと大変感謝しております。また、私の留学を支えてくれている家族や友人たちに感謝し、与えられた約 10 ヶ月という期間を、悔いの残らぬように、勉学に励み、そしていろいろな経験を積み重ねていきたいと考えています。福井県奨学生としての自覚をもって、日々邁進していきたいです。

【フィンドレー大学について】

フィンドレー大学は、アメリカ・オハイオ州の南北部に位置する私立大学です。学校規模はあまり大きくなく、授業は少人数制で、教員と生徒の距離が近いアットホームな雰囲気の中で行われています。経営学・自然科学・社会科学・馬術学など、約 60 の学部専攻があり、実践的な教育をモットーとした大学です。また、課外活動や学内のイベントなども盛んで、キャンパスライフをより充実したものにできます。



【フィンドレー大学の授業について】

私は、フィンドレー大学で英語集中コース（IELP）の授業を受けていて、Reading, Listening, Writing, Communication, Grammar を学んでいます。このコースでは、中国、台湾、サウジアラビア、コロンビアなど、多国籍な留学生たちと一緒に、日々切磋琢磨しながら学習しています。積極的に質問をする留学生たちに負けないよう、私も頑張っていきたいです。また、これらの授業に加えて、Experience in Japanese という授業も受けています。この授業では、アメリカ人の学生と共に日本文化とアメリカ文化の違いについて勉強しています。まだ始まったばかりですが、どの授業もディスカッションやクラスメイトの前で話すことが多いので、人前で話すのが苦手な私にとってはいい練習になっています。自分の言いたいことがうまく伝わらないことがあり、もどかしく感じることもありますが、自分の英語力を磨くために頑張っていきたいです。

【フィンドレーでの生活について】

フィンドレー大学の学生は、ほぼ全員がキャンパス内にある寮か、一軒家に住んでいます。私は現在一軒家に、アメリカ人、ケニア人、オーストリア人、日本人と一緒に住んでいます。部屋にもよりますが、私の部屋は2人で1つなので、オーストリア人のルームメイトと一緒にです。また、キャンパス内は24時間セキュリティの車が巡回しているので、とても安心、安全です。

放課後・休日の過ごし方は、フィンドレー大学で行われているイベントに参加したり、放課後にキックボクシングのクラスに参加してみたり、キャンパスを出てダウンタウンを自転車で散策したり、お祭りに行ったりと、楽しい毎日を過ごしています。



【今月を振り返って】

こちらに来て、あっという間に9月になりました。まだ、完全にこちらの生活に慣れた訳ではないですが、生活のリズムを掴みつつあります。入学式では、フィンドレー大学の教授たちが、黒のガウンと帽子を被って新入生を迎えていて、日本ではできない経験をしました。こちらに来てさまざまな人に会いましたが、自分はまだまだ積極性が足りないと感じています。より多くの人と関わって、自分の知見を広げていけるよう、積極的に動いていきたいです。



2018—2019 年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 9月

作成者：北 瑠依子

作成日：2018年10月9日

10月になり、寒くなったかと思えば暑くなる、読めない天候が続いています。しかし、朝と夜の冷え込みが確実に増しているのので、秋の近づきを感じています。こちらに来て、あっという間に2ヵ月が経とうとしています。こちらでの生活にも慣れてきて、授業以外の活動にも目を向けられる余裕が出てきました。今回の報告書では、授業だけでなく、福井県のプレゼンテーションやサービス活動について、お話したいと思います。

【授業について】

私は、IELP コースの授業を受けています。テストやプレゼンテーションをすることが多く、その準備に忙しい毎日を送っています。ですが、日本の授業ではなかなか人前で話す練習をしないので、とてもいい勉強になっています。また、リスニングのクラスでは、ネイティブスピーカーのクラスと合同授業を行いました。学生たちの考えたインタビューを留学生たちが答えていくというもので、とても刺激的な授業でした。クラスメイトとも次第に仲良くなっていき、クラスメイトの家で鍋パーティーに参加させてもらう機会もありました。

また、英語以外の授業である、Experience in Japanese という授業で、アメリカ人の生徒たちとグループを作って、自分の国の料理を作ったり、運動をしたりするという課題が出されました。私たちのグループは、お米を炊いて、ミルフィーユ鍋を作りました。出来はまあまあでしたが、アメリカ人の子からは好評でした。お互い自分たちが作ったご飯を食べながら話し合う、楽しい時間を過ごせました。また運動の課題では、卓球をして、お互いの新たな一面を発見することができました。



【福井県のプレゼンテーション】

今月は、フィンドレー大学の看護学部の生徒たちに、福井県のプレゼンテーションを2回しました。同じ福井県の奨学生である伊藤さんと一緒に、福井県の魅力を紹介する1つのプレゼンを作りました。私は、福井県が幸福度1位であること、学力と体力も共に1位だということをメインに作成しました。福井県のことを調べていくうちに、福井県の魅力を自分自身が再発見できました。学生の前でプレゼンをするときはとても緊張しましたが、英語のクラスでプレゼンを何度もしていたので、自信を持ってできました。2回目のプレゼンは、伊藤さんが不在だったので、伊藤さんのパートもやることになりすごくプレッシャーを感じましたが、なんとか終わってよかったです。こちらにいる日本人の先生が、プレゼンとは、プレゼンターと聞き手の対話であるとおっしゃっていました。今後は、そのことにも気を付けて、プレゼンテーションを作っていきたいです。

【OT サービス】

フィンドレー大学で社会人の方たちが受けている Occupational Therapy という授業に参加させてもらう機会がありました。授業では、グループを作り、そのグループでお互いのことについて話し合い、また授業以外の時間に一緒にどこかに出かけるという課題が出されました。ディベートの時間は、日本とアメリカの文化の違いや、食べ物、家族について話し合いました。そして、授業以外の時間に、そのグループのメンバーで夜ご飯を食べに行きました。とてもおいしいレストランを紹介してもらい、授業中には聞けなかったことなどを話しました。彼女たちの仕事と勉強の両立を頑張っている姿を見て、自分も頑張らないといけないと強く思いました。

【休日】

今月は、ルームメイトと友人を呼んで、カレーパーティーをしました。カレーとエビとブロッコリーの炒め物を友人と作って、みんなで食べました。カレーを作るために、カレー粉を探していたら、なんと日本のカレー粉が売っていてとても驚きました。料理を作った後は、みんなでランプのババ抜きをして遊びました。ルールを知らなかった外国人の友人たちも、日本スタイルのババ抜きを気に入って

くれて、とても楽しい時間を過ごせました。またこのようなパーティーをしたいと考えています。

来月の報告書では、自分が参加したフィンドレー大学の活動について、書いていきたいと思っています。



2018—2019 年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 10 月

作成者：北 瑠依子

作成日：11 月 6 日

気が付くと 11 月になり、フィンドレーはとても寒くなりました。こちらは日本の冬並みの寒さで、少し戸惑っています。風邪を引かないように、体調管理をしっかりしていきたいです。10 月は、さまざまなイベントに参加したり、秋休みを利用して遠出をしたりと、たくさん動いた 1 ヶ月となりました。今回の報告書では、そのことたちを中心にお話したいと思います。

【フリード前学長との対談】

フィンドレー大学・福井県奨学生制度を創設してくださった、フリード前学長とお話する機会がありました。フリード前学長は軍で働いていたため、いろいろな国に赴任していたこと、また教育者として長年教壇に立っておられたことなど、たくさんのお話が聞けました。短い時間ではありましたが、貴重なお話が聞けて福井県とフィンドレー大学のつながりを改めて感じました。



【Funday Sunday】



私は、フィンドレー大学にある Mazza Museum で毎月開かれる Funday Sunday という子どもや家族向けのイベントのボランティアとして、同じ福井県奨学生の伊藤さんと共に活動しています。さまざまなブースがあり、その日本ブースで日本の文化や遊びを子どもたちに体験してもらっています。10 月はヨーヨー釣りをして、たくさん子どもたちがヨーヨーを楽しそうに釣っている姿に、やりがいと癒しを感じました。当初用意していたヨーヨーが全部なくなってしまふほどの盛



況ぶりで、その場で伊藤さんと協力してヨーヨーを作るほどでした。日本について遊びを通して知ってもらえる数少ない機会だと思うので、日本の魅力を知ってもらえるように、これからも頑張りたいです。

【Travel the globe】

アメリカの高校生たちに日本の文化を紹介するイベントに参加しました。キャラ弁作りや日本のマナーや買い物の仕方などを、日本語を勉強している高校生たちに教えるというものでした。私は、日本の家に入るマナーを教えました。英語で伝えるのは難しかったですが、高校生たちが日本のマナー通りに、靴を脱いでそろえることを覚えてくれたときは本当に嬉しかったです。自分自身も、日本のマナーを知っていないと教えられないので、少し勉強しましたが、日本のマナーの複雑さを思い知りました。イベントでは、高校生たちと日本語と英語をまぜて会話ができて楽しい時間を過ごせました。



【Food Pantry】

朝の 6 時半集合で始まった、フィンドレーに住む貧困層の方たちにご飯を配るフードパントリーに参加しました。私は、コーヒーやマフィンなどの軽食を配る係でした。朝の早くから、たくさんの方たちが来ていて驚きました。年配の方たちが比較的多かったので、コーヒーを席まで運び、席を作るお手伝いをしたら、とても感謝され日本語で「ありがとう」とお礼を言われ、とても嬉しかったです。また、来ている人と話をするのができ、生活や家族のことなどを聞くことができ、充実した時間を過ごせました。アメリカ社会を知る上でも、フィンドレー大学に来たら絶対参加してみたかった行事だったので、それが叶って良かったです。来年もあるそうなので、また参加したいです。

10 月は参加したイベントが多く、そのどれもがとても有意義な経験になったと感じています。たくさんの人たちに出会うことが自分にとっていい刺激になっています。これからも開かれるイベントには積極的に参加していきたいと考えているので、来月も活動的な月にしていきたいです。

2018—2019 年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 11 月

作成者：北 瑠依子

作成日：12 月 7 日

早くも 12 月になり、こちらに来て 4 ヶ月が経とうとしています。フィンドレーはとても寒く、11 月から雪が降り始め、気温が氷点下になる日が続いています。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は授業も終わり、期末テスト・レポートの時期になり、毎日慌ただしい日々を過ごしています。今月の報告書では、授業、Child mentoring、Service ambassador project、Thanksgiving day などについて書いていきたいと思います。

【授業について】

IELP コースの授業は後半戦に入り、一つ一つの課題が重たく感じるようになりました。11 月の授業でとても印象深かったことは、Listening のクラスで、耳が聞こえない方の講演を聞いたことです。日本でもこのような講演会に参加したことはありますが、海外では初めてだったので、とても新鮮でした。講演中、通訳者が講演者の手話を通して、声色や声の大きさを変えていており、なぜそこまで読み取れるのか気になっていました。講演者の方曰く、手話で必要なことは、表情とジェスチャーであり、身振りの強弱を通して相手に自分の言いたいことを強調して伝えるそうです。手話とは、英語や中国語などの言語を学ぶことと同じであり、その言語に対して優劣は存在しないという言葉がとても印象的でした。

Communication のクラスでは、主にプレゼンテーションをします。最初は苦手だったプレゼンが、この授業で練習していくうちに、徐々に人前で話すことに慣れてきました。そして最終プレゼンでは、クラスメイトからとてもよかったと褒められ、自分のプレゼンのスキルがこの授業を通して鍛えられたのかなと感じています。そして、嬉しいことに 11 月は、IELP コースの毎月 1 人選ばれる Student of Month に選ばれました。IELP コースのコース長から、賞状とプレゼントをもらい、さらにオフィスには私の写真が飾ってあり少し恥ずかしかったです。自分が選ばれるとは思っていなかったのもとても驚きましたが、今まで取り組んできたことに自信をもっていきたいです。



【Child mentoring】

Child mentoring とは、10 月から週に 1 回放課後学校に行き、家庭に事情を抱える子どもたちと、ゲームやお喋りを通して交流するというものです。留学生たちは、子どもたちとメンターさんとで構成されている少数グループに入り、一緒に活動します。子どもたち

は基本的に小学校の低学年の子が多く、元気いっぱいでした。週1回の交流でしたが、子どもたちと徐々に仲良くなれたことがとても嬉しかったです。最終日は、日本の遊びである折り紙を一緒にしました。子どもたちが苦戦しながらも、楽しそうに折り紙を折り、目を輝かせながら完成したもので遊んでいる姿に心が癒されました。短い期間でしたが、とてもいい経験になりました。

【Service ambassador project】

これは、留学生とアメリカ人の学生とでグループを作り、学校側で指定された場所に行き、ボランティアを週に1回するという活動です。私は、アメリカ人の学生2人と同じグループで、毎週日曜日に教会で食事の配膳のお手伝いをするというものでした。教会で活動するというのは初めてだったので、最初の頃は緊張していました。活動内容は、活動する教会によって違いましたが、初めて行った教会では、食べ終わったプレートを下げたり、机や椅子を片づけたりする仕事为主でした。その教会で活動中に、IELP コースの先生に会い、その先生が毎週通っている教会ということもあり、先生に中を特別に案内してもらいました。子どもが生まれると、必ず教会で洗礼を受けることや教会を変えるということ、服装や聖書のことなど様々なことを教えてもらいました。別の教会ではご飯の配膳の仕事で、幅広い年代の人と交流することができアメリカ社会における教会の役割の大きさを認識しました。全ての活動がとても有意義であり、教会に行ってボランティアができたこと自体が貴重な経験でした。それだけではなく、一緒にグループだったアメリカ人の学生たちと仲良くなれたことも私にとって大きなことでした。人との出会いをより大切にしていきたいです。

【Thanksgiving dinner&Thanksgiving holiday】



11月は、アメリカにとって大きな祝日 Thanksgiving day があります。大学では、Thanksgiving dinner というイベントがあり、フィンドレー市内に住む方たちと一緒に、Thanksgiving で食べる伝統的な料理を食べました。メニューは、マッシュポテト、ターキー、かぼちゃにマッシュマロソースがかかったものでした。料理は美味しく、また同じテーブルだった方から、Thanksgiving の過ごし方やその人の昔のお話などを聞くことができ、楽しい食事会になりました。

そして、Thanksgiving holiday には友人とオハイオ州のシンシナティに行ってきました。シンシナティは、南北戦争時代に奴隷たちが、奴隷州のケンタッキー州から自由州のオハイオ州へ逃れるために、オハイオ川を渡り、さらに北へ彼らを逃がすための地下鉄道の重要な拠点地だったといわれています。そのため、

シンシナティには「National Underground Railroad Freedom Center」という博物館があり、奴隷制度とその撤廃に向けた歴史を学ぶことができます。奴隷制度の恐ろしさや、自由を勝ち取るまでの教科書には載っていないような壮絶な過程を知り、胸が痛くなりました。また、博物館や美術館だけでなく、オーケストラの演奏も聴きにも行きました。生でオーケストラの演奏を聴きに行けるという自分にとって贅沢な時間でした。シンシナティは、同じオハイオ州であるフィンドレーとはまた違った魅力がたくさんあり、アメリカの歴史を知ることができる町だと思います。



11月は勉強や活動だけでなく、休日も充実していたと思います。12月は、今学期の締めくくりとしての期末テストを頑張りたいです。また、来学期に向けての準備もしっかり行いたいです。

最後まで、読んでいただきありがとうございました。

2018-2019年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 12月

作成者：北 瑠依子

作成日：1月8日

新年明けましておめでとうございます。早いもので、大学では春学期の授業が始まりました。新学期は、英語の授業だけでなく、数は少ないですが学部の授業も取っています。今月は、学期末テストと、マッサミュージアムでのイベント Funday Sunday、冬休みのアメリカ旅行について書いていきたいと思います。

【学期末テスト】

12月は秋学期の締めくくりとしての学期末テストがあり、テスト勉強に期末レポートと忙しい日々を過ごしました。期末テストはあっという間に終わりましたが、期末レポートが本当に大変でした。英語で文章を書くということの難しさを改めて実感しました。文章のパターンが同じになりやすく、あまり広がりのある文章を書くことができませんでした。そのため、いろいろな種類の文章が書けるように勉強していきたいです。それだけではなく、テストや秋学期の授業を通して、引っかかった箇所をもう一度見直していきたいです。IELP コースで英語を最初からしっかり学ぶのは今学期までだったので、来学期ではそれらの知識を生かせるように、日々英語の勉強を続けていこうと思います。

【Funday Sunday】



12月は、日本ブースは魚釣りをしました。魚は手作りで、日本の釣りゲームをアメリカの子どもたちに体験してもらいました。この時期なので、水槽である段ボールに白い模造紙で飾り付けし、アイスフィッシングのようにしてみました。釣りゲームは好評で、たくさんの親子が楽しんでくれました。毎回日本ブースは、手作りのもので子どもたちに遊びを通して日本を知って

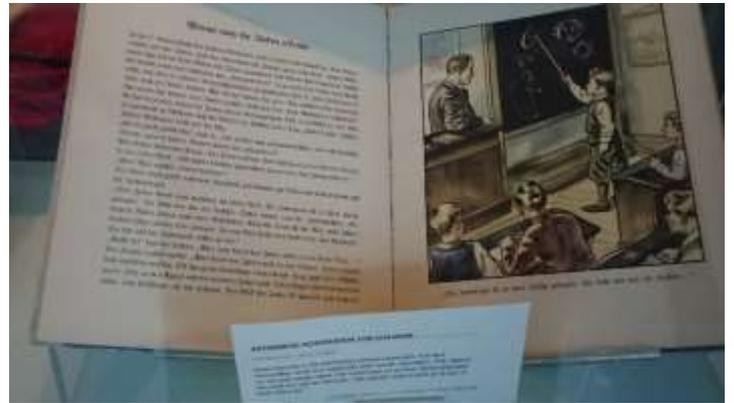
もらうことを考えているので、今回もそれが果たせたのではないかと思います。また、何度も釣りをしに来てくれた親子がいてとても嬉しい気持ちになりました。マッサミュージアムの Funday Sunday のイベントは、毎月飾り付けやスタッフの服装などが凝っていて、いつも驚かされます。たくさんの親子が楽しみにしているので、それに加わったこと、そしてそのグループの一員として、新学期からも Funday Sunday を盛り上げていきたいです。



【冬休み】

私はこの冬休みに、ロサンゼルスとサンフランシスコに行ってきました。この2つの都市は、私がアメリカにいる間に行ってみたかった博物館・美術館がありました。

まず、ロサンゼルスでは行きたかった「トレランス博物館」に行きました。この博物館では、ナチスドイツの迫害を受けたユダヤ人の人たちの迫害以前の生活や、なぜ人種差別が生まれるのか、私たち個人に何ができるのかということを知ることができます。私が行ったときは、偶然にもホロコーストの生存者の方の講演会が開かれる日で、その方からお話を聞くことができました。その人から、どのように収容所に連れて行かれたのか、そして命の選別がどのようになされたのかを知ることができました。その人の腕には、収容所で彫られた番号のタトゥーが未だに残っており、一生消えない傷跡だと思いました。人種に対する嫌悪感情が引き起こす悲劇の恐ろしさを感じ、自分には何ができるのかを考える機会となりました。また、ロサンゼルスには「ホロコースト博物館」があり、そこにも行きました。この博物館は、ナチスドイツだけでなく、世界で行われた虐殺についても展示されていました。ナチスドイツが学校でユダヤ人を排斥するために、どんな内容を教えていたのかを知ることができ、教育というものが人に及ぼす影響の大きさを感じました。



サンフランシスコでは、スヌーピー美術館に行ってきました。このスヌーピー美術館の建設に関わった人たちの中に日本人がいて、その人とスヌーピーの作者であるチャールズ・シュルツ氏が協力してデザインした展示物があり、とても素敵だと思いました。美術館には私と同じ日本人観光客も多く、さらに日本でデザインされたスヌーピーの置物などがありとても驚きました。

この旅行を通して、楽しいだけではなく、自分も知らず知らずのうちに誰かに偏見を抱いていることがあるのではないかなど、日本で生活しているときにはあまり意識したことがなかったことについて考える良い機会となりました。

最後まで、読んで下さりありがとうございました。来月では、新学期のことを中心に書いていきたいと思います。



2018-2019年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 1月

作成者：北 瑠依子

作成日：2月8日

早いもので、もう2月になりました。新学期が始まり慌ただしい毎日を過ごしています。1月は、フィンドレーはマイナス20度近くになる週があり、珍しいことに学校が全休になりました。外に出ると、顔が寒さで痛くなり、濡れたタオルが凍るほどの極寒でした。今回の報告書では、授業のことや活動について書いていきたいと思います。

【授業について】

今学期からは、IELPの授業ではなく、一部の学部の授業を受講しています。英語の授業は必修で、Writing, Reading, English for specific purpose という授業を取っています。IELPの授業と比べて、論文の書き方をより詳しく学んでいます。クラスメイトたちも変わり、南米とドイツからの留学生たちと一緒に勉強しています。英語を流暢に話せる人たちなので、負けないように頑張っていきたいです。また、英語のクラスだけでなく、今期は Introduction to Japanese culture という授業とピアノのクラスを受講しています。日本社会や風習を日本人の視点ではなく、外の視点から見ることで新たな発見や、自分自身も知らなかったことに気づくことができます。また、課題で日本のニュースを英語で読んでくるというものがあり、日本で今何が起きているのか、そしてそれをクラスメイトたちとシェアすることで、さまざまな意見を聞くことができ、とても面白いです。ピアノのクラスは、小さいときからピアノを習っていたので、アメリカで教わってみたいと思い履修しました。先生から、日常生活で使う言葉は勉強するけど、音楽などで使う専門用語は習わないから難しいよねと言われ、確かにその通りだと思いました。ですが、日本人ではない先生から音楽について学べるのが新鮮で楽しく受講しています。また、ピアノの練習ができる教室があり、いつでも使い放題なので、放課後に練習しに行っています。今学期は、より新しいことが学べる機会が多いと思うので、いろいろなことに挑戦していきたいです。

【新年会】

1月は、フィンドレーの学生たちに日本のお正月を体験してもらうための新年会がありました。参加者全員が書初めをし、筆を持つことが初めての学生たちも、お手本を見ながら一生懸命書いている姿が印象的でした。私も習字をするのは久々だったので、中々うまく書けず苦戦しました。最後は、お餅をみんなで食べました。フィンドレーの学生たちにもお餅は好評で、おか



わりをしている人がたくさんいて嬉しく思いました。日本の文化をこのような会を通して知ってもらえる大切な場だと思えました。

【Mobile Food Pantry】

前学期に引き続き、今学期もフードパントリーに参加しました。この活動では、低所得者の方たちに食料を提供します。前学期と違って、今学期はカルチャー教室が開かれ、留学生たちが自国の遊びやお菓子をもち寄って参加者たちと交流する機会がありました。日本ブースでは、お箸を使ったゲームと福笑い、折り紙をしました。食料を提供しているところと、カルチャー教室が少し離れていたため、参加者たちを集めるのに苦労しました。日本の遊びでは、折り紙とお箸を使ったゲームが人気で、来てくださった方が笑顔でゲームを楽しんでいる姿をみて、参加できてよかったと強く思いました。お箸を使ったことがない大人も子どもも、少しの説明で上手に箸を使いこなし、豆を器用にカップに移していたので驚きました。前学期と今学期のフードパントリーの活動を振り返って、当初は来る人たちに対して少し怖いなどのネガティブな感情を抱いている自分がいました。ですが、直接彼らと話しているうちに、とてもフレンドリーで気さくな方だということに気づき、自分自身では気がつかなかった、自分が持っている偏見にこの活動を通して知ることができました。フードパントリーに参加できて本当に良かったと思います。



うちに、とてもフレンドリーで気さくな方だということに気づき、自分自身では気がつかなかった、自分が持っている偏見にこの活動を通して知ることができました。フードパントリーに参加できて本当に良かったと思います。

【Friday lecture】

金曜日の朝の7時半から、異文化間コミュニケーションの講義がありました。異文化理解とは、その国の歴史や、文化、習慣、社会背景をすべて学ぶことが重要であり、異文化摩擦を経験することで、そこから成長できるということを、この講義から学びました。” **Get out of your comfort zone**” という言葉が印象的でした。自分はまだまだ生ぬるいところにいると感じているので、もっと自分を律していきたいです。また、講演が終わった後に、個人的に質問をしに行ったら、自分が知りたかった情報や、そのことについて詳しい方とつなげてくださり、自分にとって、とても大きな意味のある講演会になりました。

最後まで、読んでいただきありがとうございます。来月も積極的に活動していきたいです。また、残りも数ヶ月なので、悔いが残らないように頑張っていきたいです。

2018-2019年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 2月

作成者：北 瑠依子

作成日：3月6日

お世話になっております。新年が明けてからとても早いスピードで毎日が過ぎ去っていくように感じております。フィンドレーはまだとても寒く、雪が降っています。気温も氷点下になる日が続いていて、春が来るのが待ち遠しいです。5月までの残りの日々を大切に過ごしていきたいです。今回の報告書では、参加したイベントや授業について書いていきたいと思っております。

【Funday Sunday】

今回の Funday Sunday では2月ということで、節分をイメージした遊びをしました。豆まきは後片付けが大変なので、輪投げの的に鬼の顔を描き、そこに輪を投げてもらおうというゲームにアレンジしました。輪投げは子どもたちから好評で、何度も遊びに来てくれる親子が多かったです。またテーブルに節分と豆まきの説明の紙を置いたことで、日本の豆まきという風習を面白いと言ってくださった方がいました。このような遊びを通して日本のことを知ってもらえるということがとても嬉しいです。来月はこれを超える何かをしようと考える原動力になります。Funday Sunday に参加できるのも4月までので、親子で楽しめるような遊びをこれからも考えていきたいです。



【OT meeting】

Occupational Therapy という授業の学生と留学生がグループを組んで、集まり話し合うという授業の初回のミーティングに昨年と同じく参加してきました。グループの人たちはとても優しく、話もとても面白くあっという間のミーティングでした。私の好きな映画である「君に読む物語」の撮影場所でプロポーズされた人の話や、ポルトガルへの旅行話、日本のラーメンの話など、とても興味深かったです。美味しいレストランや日本食が有名なところなどを教えてもらいました。働きながら、週に一度のこの授業に参加している方が多いので、仕事の話や家族の話など、学生と話している時とはまた違った面白さがあるように感じます。これから会う機会があると思うので、いい関係を築いていきたいです。

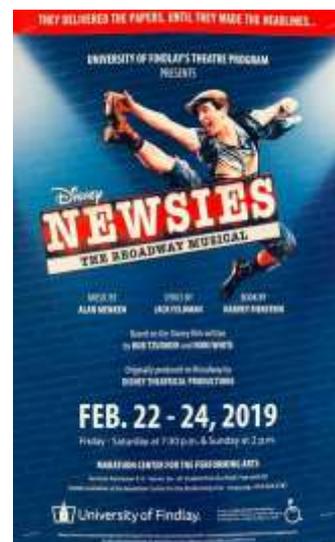
【Mother language day】

1952年2月21日、当時パキスタンの一部だったバングラデシュで、パキスタンの国語統一政策に反対し、ベンガル語を公用語とする運動が行われ、デモ隊と警官隊の間で抗争が起き、死傷者も出ました。この運動にちなんでユネスコが制定した、言語と文化の多様性、あらゆる母語の尊重の推進を目的として制定された日が、国際母語デー (Mother language day) です。このイベントでは、さまざまな国の学生たちが、自分たちの国の母語を使ってパフォーマンスしたり、歌を歌ったりしていました。南アジアは使われている言語はたくさんありますが、正直民族衣装や踊りの違いがよく分かっていませんでした。しかし、このイベントに参加して、曲の雰囲気や衣装の違いを少し理解することができました。日本のパフォーマンスもあり、同じ言語だからこそ分かち合える価値観や、良さがあると改めて実感しました。自分たちの使っている言語は文化の一部であり、切り離して考えることはできないと思いました。



【Newsies】

フィンドレーの学生が出ている Newsies という舞台を観に行きました。アメリカで舞台を観るのは初めてだったので、とても楽しみでした。舞台を観に行く前に、地域の方たちと舞台演出の方と一緒にご飯を食べて、舞台の裏話や見どころなどを聞ける機会がありました。フィンドレー大学は、地域の方たちと学生を繋げる機会をよく設けているので、フィンドレーに住む地域の方たちと気軽に交流することができ、日本ではあまり感じない大学と地域のコミュニティの連携の強さを感じます。地域の方のフィンドレー大学への愛情をすごく感じましたし、気軽に地域の人たちと話すことができるので、フィンドレーの歴史を知ることができます。ミュージカルは歌とダンスの圧巻のパフォーマンスに驚いてばかりでした。学生がやっているとは思えないほどの、すごいミュージカルでした。このような貴重な舞台を観ることができて、とても幸せでした。



最後まで読んでいただきありがとうございます。来月も、いろいろなことに挑戦して密度の濃い月にしたいです。

2018-2019年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 3月

作成者：北 瑠依子

作成日：4月6日

早いもので、こちらに来てからあっという間に4月になりました。日本は桜が咲いているという話を聞きました。フィンドレーは徐々に暖かくなってきましたが、気温の上下が激しいので体調管理に気を遣っていきたいです。今回は、イベントや自分が受けたインタビューのことについて書いていきたいです。

【OT meeting】

Occupational Therapy という授業を取っている人たちと留学生たちがグループを組み、仲を深めるという活動に参加しています。前は初回のミーティングだったのですが、今回はグループの方たちと一緒にご飯を食べに行きました。大学周辺のダウンタウンにある、グループの方たちが美味しいと絶賛していたサンドウィッチ屋さんに行きました。そこは、「ジョウウィッチ」というパンの中に全ての具材が入っているサンドウィッチが有名なお店でした。サンドウィッチはとても食べ応えがあり、おすすめされていた通りとても美味しかったです。食事中は、グループの方のウェディングドレスの話や、恋の話などをしました。また、アメリカと日本のデートの違いについて議論し、結論として恋の始め方は同じだということが分かりました。学生ではない方たちなので、婚約者がいたりときまぎれでしたが、とても楽しい時間を過ごせました。

【インタビュー】

日本語を専攻している学生から、田舎の過疎化についてインタビューを受けました。私は福井市の中でも特に田舎の方出身で、大学は福井県外なので、自分自身の経験や現在の状況などを話すことができました。しかし、「なぜ若者が田舎から出ていくのか」「都市にはあって福井にないものとは何か」「どうすることが福井の活性化につながるのか」など、福井県民として考えさせられる質問が多かったです。簡単に答えられても、なぜそう思うのか、原因はどこにあるのかということは考えたことがなかったので、自身の福井への意識の低さに気が付きました。日本語を勉強している学生からのインタビューだったので、日本についてとても詳しく、さまざまな視点から日本の田舎や福井を見ることができました。「福井をより魅力的に、若者を引き付けるためにはどうしたらいいか」という問いに関しては、まだまだ考えていきたいと思いました。

【International Night】

今月は、50周年を迎えるフィンドレー大学の大きなイベントの1つである International Night がありました。留学生たちが自分たちの国の食べ物やダンスを披露するというとても

大きなイベントです。私は、このイベントの日本担当として友人たちとミーティングに参加してきました。日本の食べ物やパフォーマンス、遊びを何にするのか、何度も相談を重ね、食べ物は「そばめし」と「団子」「緑茶」。遊びは、「福笑い」と「スーパーボールすくい」、パフォーマンスは「恋ダンス」に決定しました。「恋ダンス」は特に準備に時間がかかり、空いている時間を使ってみんなで練習し、何とか形にすることができました。当日は、朝から何百食と必要な食べ物の準備で忙しかったです。ですが、イベント中にあっという間になくなってしまったと聞き、驚きました。空になった「そばめし」をみて、食べたかったから悲しいと言ってくださった方がいて、申し訳ないと思うと同時に、とても嬉しく思いました。日本ブースは毎年人気があると聞いていたので、毎年の日本人留学生たちの積み重ねのおかげだと思いました。ダンスは、日本らしさをだすため、浴衣を着て踊りました。浴衣はとても好評で、たくさんの人たちから写真を撮っていただきました。多様な国々の食べ物やパフォーマンスを観て、フィンドレー大学の国際色の豊かさに感服しました。とても思い出に残る素晴らしいイベントでした。



いよいよ次で最終回です。早いもので来月には日本に帰ります。残された時間は、あとわずかですが、悔いが残らないように、毎日大切に過ごしていきたいです。ここでしか経験できないことを、恐れずにどんどん挑戦していきたいです。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

2018-2019年度 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 4月

作成者：北 瑠依子

作成日：5月16日

お世話になっております。早いもので、今月が最後の報告書となりました。4月は、最終試験やシンポジウム、5月はフリード前学長を表敬訪問しました。今月はこれらについて書いていきたいと思っております。

【シンポジウム】

フィンドレー大学では、生徒が自身の研究を発表するシンポジウムが開催されます。発表形式は、ポスター発表または口頭発表で、それに向けて各々が研究を進めていきます。私は、大学院で研究しているカンボジアのノンフォーマル教育について発表しました。研究をより深いものにするために、日本で読んでいた文献や論文だけでなく、アメリカでしか触れることができない文献や論文を探し、読みました。また、図書館司書の方を紹介してもらい、司書の方とどのようなアプローチで文献を探すか、また研究の方向性について話し合いました。大学院では、調査しやすいようにテーマや内容を狭めることを求められていましたが、司書の方からは、狭めるより広く調べていった方がさまざまな情報を得ることができるとアドバイスを頂きました。おかげで調べる内容を特定しすぎるとヒットする文献に限りがあることに気づかされました。そして、発表に向けてペーパーとプレゼンを作り、練習しました。本番はとても緊張しましたが、しっかり発表できたと思います。英語で論文を探して読むということを、本格的にしたのは初めてだったので、最初の方はかなり時間がかかり、根気のいることでしたが、ここでの経験は自身の研究に必ず役に立つものだと思います。また、研究にどのような情報が必要なのか、よりクリアにできました。



【期末試験】

今期の期末試験は、テストだけでなく、ファイナルペーパーやピアノのリサイタルなどがありました。Writingのクラスでは今までの総復習である、1つの事柄に対して読者を納得させるような内容のペーパーを書くことが課題でした。英語での引用の仕方などに慣れるのには苦労しましたが、授業で学んできたことを活かして書くことができました。課題を通して、自分の書く能力が上がっているなど感じることができました。先生からは、とても良



いペーパーだと褒めて頂き、とても嬉しく思いました。ピアノの授業では、試験ではなくリサイタルがありました。授業は先生とのマンツーマンなので、生徒同士の交流が全くありませんでした。しかし、リサイタルで初めて、どのような生徒が授業を取っていたのか知ることができました。どの演奏も素晴らしく、演奏順が終わりの方だった私は、ずっと緊張しっぱなしでしたが、何とか演奏を終えることができました。音楽の授業ならではのリサイタルに参加できたことは、貴重な経験でした。最後の期末試験も、悔いがないように取り組むことができました。

【前学長表敬訪問】

5月の最初に、フィンドレー大学での留学で学んだことと、この留学制度を確立してくださったお礼を言い、フリード前学長のお宅を表敬訪問しました。フリード前学長は、とても物腰が柔らかく、あまり緊張することなくお話することができました。また、博識で素晴らしい功績を残していらっしゃる方で、お話を通して、教育に対する熱意を強く感じました。フリード前学長がこの奨学金制度をつくってくださったおかげで、フィンドレー大学に留学することができました。心から感謝しています。貴重な時間を頂き、お会いできたことを光栄に思います。



今まで読んでいただきありがとうございました。この10ヵ月間でたくさんのことを学ぶことができました。フィンドレー大学での留学経験は、英語だけでなく、たくさんの方から私を大きく成長させてくれました。さまざまな行事に参加し、たくさんの方たちと関わることができ、それらは私の宝物となりました。充実した留学生活を送れたことを、本当に幸せに思います。福井県の奨学金制度を確立してくださったフリード前学長と福井県知事をはじめ、私を選んでくださった国際交流協会の人たちに、本当に感謝しています。ありがとうございました。



振り返ると、あっという間の10ヵ月間でした。日本を旅立った日をまるで、昨日のように感じます。アメリカという国は、私が思っていた以上に広く、さまざまな人たちが自分なりの生き方を探し、貫いていました。日本では、みんなと同じことをして、そこからはみ出ないようにする生き方が好まれます。それがよしとされる環境に息苦しさを感じていた私にとって、フィンドレー大学での留学経験は、自分のこれからを真剣に考える大切な時間となりました。

留学中、たくさんの人たちと出会い、話をし、いろいろな生き方に触れてきました。彼らの目標や何になりたいか、何をしたいかは本当にさまざまで、こうじゃないといけないというルールなど存在していませんでした。私自身が、いかに年齢や性別という目に見えるものに縛られていたかを気づかせてくれました。周囲の目を気にして、周りと一緒にいる必要性など1つものなく、自分の人生をどう生きていくかの方が大切であると心から理解することができました。フィンドレー大学では、とても明るく親切な友人たちに囲まれ、毎日充実していました。ボランティア活動や、学内のイベントに積極的に参加し、自分が今までしたことのない経験を積み、幅広い知見を得ることができました。これらの貴重な経験は、将来私にとって、必ず役に立つものだと考えます。また、川村先生をはじめ、川村先生から紹介していただいたカンボジアで活動していた方たち、フィンドレー大学にレクチャーをしに来てくださった先生、その方を通して出会うことができたアメリカの国際連合で働く日本人の方など、日本にいたら出会えなかった方と知り合うことができました。私はどちらかという受け身な方だったのですが、誰かから働きかけられるのを待っているだけでは何も得ることができず、自分から掴みに行くことの大切さを改めて実感しました。

日本を飛び出して海外に行くということは、一見すると難しいかもしれませんが、その怖さを乗り越え、飛び込むことで、自分を何倍にも大きく成長させてくれます。私は、海外に行くことに対して、何の抵抗もありませんでした。ですが、アメリカという土地で、折り合いをつけて自分の居場所を見つけて創っていくかということに、少し苦労した気がします。しかし、今の自分ができることや今しかできないことに専念することで、自分が何をすべきなのかを明確にできたと思います。

この留学を通して私は、「多様性」の本当の意味とその素晴らしさを、身をもって知ることができました。また、多角的な視点から、自分の物の見方や生き方を見つめ直すことができました。このような機会を与えてくださった国際交流協会の人をはじめ、福井県知事、フリード前学長、フィンドレー大学の先生方、友人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。また、私を支えてくれた家族や友達にも感謝を伝えたいです。素晴らしい10ヵ月間をありがとうございました。お世話になった方々に恩返しできるような、そんな人になれるよう、日々精進していきたいです。

